



永祿元年十一月廿二日

和漢聯句

高下し松林

おもむく風ふた

月樹曙光寒 堂

木さけり枕

己と鐘のりて

川さけり

玉川さけり

永祿元年十月廿二日

和漢聯句

高小多し松法
おもとる風ふる在将

月樹曙光寒 菅野

木さ出り枕乃

己と静りりく詠

川高きこゝに

玉海にるる色 菅野

管小なり 菅野

ゆりや舟乃と万

雲 菅野

畧為鳴鳩永 菅野

春兼浮蟻園 菅野

卯醒桃未解 菅野

雅操柱無端 菅野

吹風 菅野

山 菅野

春兼浮議園 經元

卯醒桃未解

言暢

雅操柱無端

言暢

吹風

うきうきと小言通中万

しんじりしんじり

神

いしんじりしんじり

淚痕紅匣乾

湖苗施寶曆

沙

月

思

林

昔

乃

逢花先折履

以

去

何

於我

風

舊

轄

榻

言暢

言暢

言暢

風草迷江雲 左角

舊苔上井欄 廣橋
大納言

轄投須作飲 菅納言

榻下屢容軒 廣橋
大納言

いふのゆゑ

おしよと見ゆる日

ふたふすく

月よしつこし

思ひねくは

あけの空草

けしき

神志り

緑暗山麻竹 万

煙凝宮帳檀 在舟

一困七心百慮 廣橋
大納言

千里報平安 万

ねく物

ゆき

な

津津

い

あ

舟

兼唱

燭

くさくさの波よ万
あまの川をさるる

舟さしてみれば舟

兼唱驚起 唐詩

燭奴臺蟲讀残 唐詩

排窓蕉貴紙月

薄暮桂跳丸 唐詩

字々箋空雁月

如之拓室翫 唐詩

之了了了了了

法乃乃乃乃乃

後の世は

古鏡雖藏面 唐詩

初蕊已含歡 唐詩

露残行路難 唐詩

露残行路難 唐詩

露残行路難 唐詩

冰解耐新沍 唐詩

載景輕舟重 唐詩

隔煙長笛酸 唐詩

己之乃乃乃

乃乃乃乃乃

載景輕舟重為

隔煙長笛酸音

己手水竹心

しつはのそと日

福々々々々

そりくわあふ万

梳衣下はさし

そりくわあふ万

そりくわあふ万

懶討員薪柱在村

御批題柳韓音

惜春燒蠟燭日

追暖擲虹竿音

ゆめゆめゆめ

波弓のねと云万

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

認村秋社鼓音

借露闕送冠音

國以十人乱万

床成六祖觀音

あつたあつたあつた

あつたあつたあつた

花々々々々

あつたあつたあつた

宋成六祖觀 菩薩云

くらくらと心ゆく

多哉らん 菩薩云

花より幼くして

去りて 菩薩云

小蝶より園生を

夢みるを 菩薩云

相露の心

比の 菩薩云

うを 菩薩云

与宏物 菩薩云

尋幽駐冷鞍 菩薩云

り 菩薩云

腫の 菩薩云

雨霽溪長古 菩薩云

潮音海寧官 菩薩云

車過雷殷 菩薩云

鞋倦雪漫 菩薩云

と志 菩薩云

ひ 菩薩云

河 菩薩云

昔の 菩薩云

簾捲驚睡燕 菩薩云

弦響聽孤鶯 菩薩云

裁竹俗緣盡 菩薩云

去の朝風

簾捲驚睡燕

弦響聽孤鶯

栽竹俗緣盡

萸菊帝業完

行々々々々

心乃乃乃乃

多のつら

其りりりり

苦短相思夢

中々々々々

破戒偷桃朔

望塵投菓潘

雲開山吐月

秋泛水生瀾

蘆折鷗迷宿

萍漂鷺下灘

物々々々々

其々々々々

其々々々々

其々々々々

其々々々々

其々々々々

其々々々々

秋泛水生瀾 菅野

蘆折鷗迷宿月

萍漂鷓下灘 万

のり さか と さ

物 し と さ さ さ

と さ さ さ さ

半 さ さ さ さ さ

に つ の さ さ さ

去 形 の さ さ さ

鳥歸谷 厥盤 經元

万廿三句

廣橋 菅野

左大将 十六

菅中納言 廿五

忠仙 三

經元 廿

和漢聯句

八利5

3186



五
三